

■令和 7 年 10 月 1 日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和 7 年 10 月 1 日（水）11:00～12:00
- 2 場 所 市役所本庁舎 3 階 第三委員会室
- 3 出席者 ○市長、副市長、企画部長、地域創生部長、農林水産部長、
市長公室長
○酒田記者クラブ／各社
幹事社／河北新報・ＴＵＹ

■市長コメント

今日は、10 月 1 日ということで、赤い羽根の募金も始まりますし、また国勢調査の基準日ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

■市長発表事項

1 酒田市の各表彰制度 令和 7 年度受賞者について（総務課）

市長／酒田市の各表彰制度における令和 7 年度の受賞者が決定いたしましたので発表いたします。

今回の表彰は、市民表彰、農業賞、庄内文化賞の 3 つの部門になります。

各表彰制度の概要、受賞者の一覧、受賞者の功績内容は別紙のとおりでございます。

まず、各表彰制度の概要につきまして簡単にご紹介申し上げます。

市民表彰ですが、今年の受賞者は 10 名となります。

まず、伊藤 信弘 様は、「酒田市老人クラブ連合会」の会長などを務められ、社会福祉の向上に貢献されました。

佐藤 豊 様は、統計調査員を長年務められ、統計調査活動に貢献されました。

佐藤 剛 様は、酒田市自治会連合会の副会長などを務められ、住民自治の推進に貢献されました。

五十嵐 伸一 様は、統計調査員を長年務められ、統計調査活動に貢献されました。

平向 邦夫 様は、松山地区自治会連合会の会長などを務められ、住民自治の推進に貢献されました。

平向 與志雄 様は、松山地区コミュニティ振興会連絡協議会の会長などを務められ、住民自治の推進に貢献されました。

故 佐藤 良 様は、大町溝土地改良区の理事長を長年務められ、産業の振興のほか、農業用水の治水対策による市の防災体制にも貢献されました。

故 佐藤 助弘 様は、袖浦土地改良区の理事長を務められたほか、長年にわたって地域農業の先導的な役割を果たし、産業の振興に貢献されました。

後藤 義光 様は、酒田市消防団の松山支団長などを務められ、消防防災活動に貢献されました。

金内 直 様は、酒田市消防団の平田支団長などを務められ、消防防災活動に貢献されま

した。市民表彰の受賞者につきましては以上でございます。

農業賞の受賞者は2名の方です。

池田 憲一 様は、各農業団体の長を歴任したほか、地域内の活動組織の代表を長年務められて農業者のまとめ役となり、地域農業の振興に貢献されました。

澁谷 克正 様は、所属する団体の役員として、広大な事業地域の水利施設等保全高度化事業において、地元の合意形成を先導するなど、事業の早期完成と地域の農業振興に貢献されました。

次に庄内文化賞の受賞者は1名です。

植松 芳平 様は、生涯学習施設「里仁館」の創設に携わるとともに、文化財や郷土文化の保護および継承に尽力され、多分野かつ広域的な学びと文化の振興に貢献されました。

以上、詳しい功績内容につきましては、別紙資料をご参照ください。

顕彰式につきましては11月7日金曜日、午前10時からベルナール酒田で執り行います。

2 令和7年度酒田市新田産業奨励賞の受賞者について（商工港湾課）

次に、令和7年度酒田市新田産業奨励賞の受賞者についてですが、本年度は2つの企業様を表彰いたします。

1 社目ですが、社寺仏閣の建築工事を手掛ける「株式会社モトタテ」であります。一人親方が多い、宮大工を社員として多数雇用し、組織として積極的に若手技術者の育成と伝統技能の継承に取り組んでおります。近年では、最新加工機械を導入するなど、生産性の向上を図りながらも、宮大工の技能を途絶えさせないよう、組織的に若手の育成に努める取り組みは、本市の産業振興に貢献していると考えます。

もう1社は、平成29年に法人化した農業関連の事業を多角的に行う「株式会社農園貞太郎」です。主軸である農産物の生産加工販売のほか、CO₂削減農産物の生産や、それらを活用した新たな加工食品などの開発に、積極的に取り組んでいらっしゃいます。

その他、自社認証ブランド「SHONAI PRIDE」の設立による農産物の付加価値を高める取り組みは、販路拡大のみならず、本市の知名度向上や魅力発信に寄与し、本市の産業振興に貢献しております。

こちらの授賞式は11月27日木曜日、午後2時15分からガーデンパレスみずほで行います。合わせて記念講演会を同日の午後3時30分から、同じくガーデンパレスみずほで行います。講師は、キリンホールディングス株式会社、代表取締役会長CEO 磯崎功典氏で「前例なき変革への挑戦」と題してご講演をいただきます。酒田商工会議所、酒田ふれあい商工会など、推薦団体の会員の方を対象に、聴講していただく予定になっております。

■市長発表事項に関する質問

なし

■代表質問

なし

■フリー質問

1 先月 9 月 13 日に行われた酒田の花火について

記者／先月 9 月 13 日に酒田の花火が行われましたが、最終的な確定した来場者数は分かりますか。

地方創生部長／有料観覧席の方が 1 万 2000 人。それから無料席も合わせて 1 万 7000 人になります。

記者／1 万 7000 人というのは、過去最高人数になったなど、そういった情報はありますか。

地方創生部長／過去の数字につきましては、後ほど担当課の方から確認して提示させていただきたいと思います。

記者／今回、1 万 7000 人が来たということについての市長の受け止めと、なぜこんなに人が集まったのかとか、そういった要因など思うところがあれば教えていただきたいと思います。

市長／たくさんの方が来ていただいて本当にうれしく思っております。天気が心配されましたけれども、花火のときは天気も良くなり、本当に絶好の打ち上げ日和になったかなと思います。

大勢来ていただけたのは、やはり楽しみにしてらした方が多いのではないのでしょうか。去年は中止となり、過去数年間では中止になった年も多かったので、2 年ぶりとなり、楽しみにしていらした方が多かったのかなと思って、うれしく思っております。

記者／ありがとうございます。

2 アランマーレの本拠地移転に対する受け止めと所感について

記者／先日、アランマーレの出陣式も行われましたけれども、改めまして、アランマーレの本拠地移転について、市長の受け止めと、酒田からプロスポーツのチームがなくなってしまうことについてのお考えをお伺いできればと思います。

市長／以前にもお答えしたことがあったと思いますが、まず 5000 人以上入る体育館を作れなかったことは申し訳なかったと思いますし、またその結果、秋田に本拠地を移転することになりましたことは私も大変残念に思っております。繰り返しですがこれまでどおり、酒田市としては市民を挙げて応援していきたい、秋田は酒田から十分に行ける距離ですし、また酒田での試合の数も、大体これまでと同じと聞いておりますので、市民を挙げて応援していきたいと思っております。

記者／ありがとうございました。

3 酒田の花火今後の所感について

記者／先ほどの関連で 1 点お伺いするのを忘れたのですが、来年度以降も、酒田の一大イ

ベントとして、どのように盛り上げていきたいかなど、所感をお聞かせください。

市長／今年、私のところに来ている声、あるいは花火の後に1回委員会を開きまして、振り返りを行いどのような反応があったかを共有しましたが、おおむね良かったといった好評なご意見・感想が多かったと思います。今年の花火が良かったのだからということで来年もっともっと多くの方が来てくれることを期待しますし、反省点も当然共有いたしましたので、それを改善につなげて、また多くの皆様から来ていただけるすばらしい花火大会に、来年はさらにパワーアップしていきたいというふうに思っております。

4 市長任期前半2年の振り返りと今後について

記者／市長の任期が、先月の5日で折り返しを迎えられたと思うのですが、4年間の前半2年の振り返りと、後半これから2年間の思い、それからその次の4年間もというようになところを今考えてらっしゃることあれば教えていただきたいと思います。

市長／2年はあっという間でしたね。特に災害がございましたから、災害対応、復旧・復興、それから目の前の課題が結構ありましたので、それに対応する2年間だったと思っております。同じことをずっと言っているつもりなのですが、言葉は少しずつ変えています。人口減少を少しでも緩やかにしながら、人が多少減っても、「豊かに安心して暮らせるまちをつくる」という方針のもとで、過去2年も、そしてこれから2年間もやっていきたいなというふうに思っております。

記者／4年間でやりたいこと、災害対応で今、いろいろそちらに手を回さざるを得なかったというところもあると思うのですが、これから2年間というところで、今まで手を付けられなかったけれども、やはり何とか、この1期目の任期でやり切らないといけないなと思っているようなこと、ここに特に力を入れないといけないなと思っているところがあれば教えていただけますでしょうか。

市長／もう特にこれというのはないですが目の前の課題ですよ。

例えば、旧清水屋。これは酒田市が何かをするということではないわけですが、旧清水屋自体は、民間主導でやっていただかないといけないと思いますが、しかし今グランドデザインを作っていますから、その方針に沿って何とか民間の動きが出てくるように促しをしていくということ。あとは、四中学区の統合学校の場所を決めましたが、四中学区だけではないと思っています。学校も含めた公共施設のあり方をどうするかや、目の前の、人口減少を抑制するためにはまだまだ産業振興、若い人の仕事も作っていかなければいけません。「えるぼし」の数は日本一になったのですが、まだ若い女性が戻ってきてないので、どうしたら若い女性が本当に戻ってくるようになるか、そこをやっていかなければいけません。安心・安全に暮らせるまちとして、市民の皆さんが安心して暮らせるように、クマやイノシシの問題、松くい虫の問題など、本当に目の前のことに取り組みながら、やっていきたいと思っております。人が減っても豊かに安心して暮らせるまちにすることです。

5 令和6年7月25日大雨災害に係る復興状況について

記者／資料でいただいた中の災害復旧の関連のもので、新しく赤字でいろいろされているところがございます。県に委託したものや未定のものもあるようですが、発注・設計までは進んでいるところもある。その中に変化がなしのところでは、入札したものの不調になっているものが何箇所かございます。もう10月になってしまい、現場で作業できる期間はいいところ2か月といったところまで来ております。実情が来年の春以降という話になってくると思うのですが、そうこうしているうちに1年2か月くらい経ってしまったわけですが、今後どのように業者の方と進めていくのか、復旧の方針についても所感を改めてお聞かせください。

市長／公告したけれども不調というところにつきましては、どうしたら入札応募者が出てくるような形にできるか、今調整しております。元々、令和8年度までということですので、冬になるのも分かっております。何とか令和8年度中に完成しますように、今、全力で何とか受けていただけるように調整をしているところです。

記者／お気持ちの部分はいかがですか。

市長／これから冬に向かうわけですね。夏が終わって冬に向かう、被害を受けた地域の方、本当にご心配だと思います。私もなるべく現地に出かける機会を設けていきたいと思っています。酒田市民みんな忘れていませんと。被災してまだ仮住まいの方、それから農地が復旧していない方、今年お米を作れば、本当に高い値段で売ることができたのに、本当に悔しい思いをされているだろうと思いますので、そういった市民がいらっしゃること酒田市民全員で覚えていると。それが一番大事だと思いますので、報道機関の方もいつも報道していただいて、忘れずに、そしてみんなで復旧・復興に向けて力を合わせていければと、今本当にそういう思いです。よろしくお願いいたします。

記者／ありがとうございます。

6 クマ出沒に係る対応について

記者／クマのことです。9月20日土曜日、鶴岡で、駅前の真ん前にクマが居座ってしまったということで、鶴岡市長が、一旦は「緊急銃猟」を出されたのですが、途中で「警察官職務執行法」という通常どおりの形で駆除されたということなのですが、保証なども市町村が持たなくてはいけないという形で、その判断を動物の生態学に詳しくない市町村長がしなくてはいけない手法に、鶴岡市長が意見したわけですが、酒田市の方では、そういうシミュレーションを立ててきたのか。例えば、警察との連携、あるいは猟友会も含めた、訓練など。私が居た前任地では、もう去年の秋口ぐらいに、猟友会と市と警察で連絡協議会を作って、11月ぐらいには市街地発砲の訓練をしていた。酒田市の場合は、このシミュレーションの立て方、今の体制など、その辺をお聞きしたい。市長としては、鶴岡市長のように、なぜ市長が発砲メールを出さなくてはいけないかという、発砲の権限委譲のことに関してどのように思っているかお聞きしたいと思います。

市長／鶴岡市の事例は私も新聞ニュースで見えておりました。権限委譲ということについて

は酒田市も、やはり現場の職員でないと分からないところもあると思いますので、現場の方に権限移譲、鶴岡市と同じようにしたいと思っております。

また、猟友会や関係者との打合わせはこれまでやっておりますが、緊急猟銃の制度ができた以降の打合わせ、シミュレーションについては市民部が担当となっています。

市民部長／今ご質問があったとおり、先日鶴岡市長の方からこういった例が出て、実際国のガイドラインも新聞報道等ございますとおり、そういったことを推奨すると、その委任をするような方向でも大丈夫ですという形になっています。それを受けて今、酒田市でも、伝達するまで時間かかってその間にクマが移動することもございますので、やはりスピード感が非常に大事だと思いますので、そこについては市長から委任を受けるような形で調整していきたいと考えております。

あと実際シミュレーション訓練、先日も天童市の方で県、警察も含めて、いろんな関係者が入って実地訓練を行いました。酒田市でも猟友会にもそういった話をしながら、近いうちに速やかに訓練をする方向で今準備を進めているところでございます。

記者／私自身は現場に権限委譲というのは、現場の職員もそんなにクマの現場に立ち会っている人がいるかどうか分からないので、やはり实际的に災害対策本部を立ち上げるときの本部長というのは市町村長になるわけであって、最終的に市民の命を守るとするのはやっぱり市町村長になるので、現場を知っているからといって、クマを駆除するという、撃てということをその職員に委譲するっていうのは、あんまり簡単に言うべきじゃないと個人的には思います。その現場の方もきちんと精通しているような訓練や研修など受けてきているのかということもあると思うのですが、権限移譲というのは、私は少し安易に感じたのですがその辺はどうなのでしょう。

市長／鶴岡市長の権限移譲のことがありましたので、確認したのですが、環境省のガイドラインでもそのようになっているので、今酒田市も環境省のガイドラインに沿った形でお伝えしましたけれども、このことに限らず去年の災害対応も全部ですが、酒田市の場合は総合支所も含めオンラインでつないで対策本部会議で共有して重要なことを決めております。クマのことは大変緊急を要するので、権限委譲と言いましたが、当然、可能な限りの情報共有は今までもおり、通常の対策本部と同じように図って、現場の職員だけに大変な負担を強いることがないような体制はとっていききたいと思っております。

記者／確認ですが、市長も環境省のガイドラインにあるとおり、その場を熟知している現場の職員の方に、今の段階では発砲許可は権限委譲したいとお考えですか。もちろん、本部長としての、災害対策の責任者としてのバックアップといいますか、情報の解析等、今現実としては、鶴岡市長と同じように、現場に権限委譲しても大丈夫だろうという、環境省のガイドラインに則って考えているということよろしいでしょうか。

市長／はい。今回の鶴岡市の事例のように、クマが移動してしまったり、向かってきたりということがありますので、その場で判断しなければいけない場合もあるというところから、そのようにしたいと考えております。

記者／これは最終的な発砲許可という形になるんですね。権限というのは。

市民部長／利用条件がございますので、そういった安全確保、全てが整った状態で、指示を出すというような形になるかと思えます。

記者／発砲許可は警察官ですけども、発砲してもよろしい状況を判断する権限ですよ。

市長／はい。そうですね。

記者／分かりました。

7 「酒田市沖洋上風力発電事業」住民学習会について

記者／前回か前々回もちょっと確認させていただきましたけれども、洋上風力発電の進み具合について、6月に県と酒田市で学習会、専門家を呼んで、学習会をやったわけですが、そのアンケート調査の結果なども先日公表されましたが、この間、三菱商事の撤退など、いろいろ環境の変化があったわけですが、現在、県とどのような検討状況なのか、法定協議会がどうなったか、この間は酒田市としては学習会みたいなことは考えてないというお話もありましたが、現在、酒田市沖の洋上風力発電がどういう状況なのかその辺り教えていただけますでしょうか。

市長／今の状況は、法定協議会をまだ開いていませんが、開けるようになるためには、まだまだ宿題もございまして、その宿題の解決を今県と一緒に、あるいは県が取り組んでおります。その課題の法定協議会を開くために必要な条件整備を今県と一緒に、整理、調整しているところです。

記者／今、宿題というお話がありましたけれども、例えば具体的に、こういったところが課題となっているのか、それから、法定協議会がいつ開けるのか、例えば年内とか、今後の見通しを教えてください。

市長／今後の見通し、いつ法定協議会を開けるかどうかということはまだ全く見通しが決まっておりません。

記者／具体的な宿題というのは、具体的にどういうことですか。

地域創生部長／実際に今、想定海域が決められているわけですが、その中で例えば港湾、酒田港の方に入っていく船舶がどこを通るとか、それに対してどこの部分をその海域から入れないエリアにするか、といったような調整です。

それからもう1つは、いわゆる庄内空港周辺の部分でございます。庄内空港の離着陸に対してどのような影響があるのか。どの程度その海域を外さなければいけないのか、といったような調整を、国の方と県の方とで行っておりますので、今現在、状況の進め方を待っているということでございます。

記者／分かりました。確認ですが、法定協議会の設置という部分で言えば、まだ見通しは立っていないということですか。

市長／はい。そうです。

記者／分かりました。